

五十八年度卒業論文の題名と提出者

漱石の人間像

「太陽の季節」論

類似助詞問の異同について

立原正秋論 その生涯と「花伝書」

亀井勝一郎論 罪の意識について

「晩年」論 小説的作品を中心として

夏目漱石論 その苦悩のあり方をめぐって

島崎藤村論

大藪春彦論

小松左京論

夏目漱石論 その生涯と苦悩について

北原白秋論

作品による太宰治の人生観

「紫」と「みだれ髪」にみる与謝野鉄幹と晶子の呼応性

子規の写生論

高野喜久雄論

高村光太郎における愛と死について

「谷崎潤一郎」論

日本語のリズム

冒頭における「ハ」と「ガ」について

今昔物語集 その笑いについての研究

芥川龍之介 「羅生門」論

安部 行尚

荒木 伸一

有田 勝秋

今井 重俊

今任 浩幸

今長谷秀樹

太田 尚志

大竹 啓登

岡迫 雄三

小川 博也

奥村 勝

奥村 龍一

柿内 隆弘

加藤 裕子

川本 泰久

吉川 晴子

工藤理枝子

栗原 幸

槐島 裕二

古賀 聖二

齊藤ちひろ

坂本 裕孝

「ドグラ・マグラ」論

「島崎藤村研究」その生涯と作品

壺井栄論「その愛を見つめて」

中島敦と「弟子」

詩集「地下水」丸山豊の凡庸主義

平家物語の死生観

中島敦「山月記」論

夏目漱石「特に則天去私までの思想の流れ

谷崎潤一郎論

谷崎潤一郎論

渡辺淳一論

武者小路実篤研究

太宰治「人間失格」論

夏目漱石論

正岡子規 病歴と革新運動

佐藤春夫論

清少納言の自然観について

「斜陽」と太宰

北条民雄論 その苦悩と文学について

安部公房の変身譚

「北原白秋論」思想の変遷とその原因

「志賀直哉の人と文学」

佐々木照代

柴田 満嗣

末田 励三

秋本 高明

鈴木 豊

高野 恵

高橋 敬三

高橋 時彦

高橋 渉

滝下 彰

武末 好示

立花 昭一

出口 浩一

中江 正彦

中村 文男

鍋倉 辰幸

野尻真理子

浜崎 勝昭

比嘉志乃美

平島 裕輔

藤沢 治男

藤原 一宏

琉歌の研究

随筆枕草子の成立

芥川龍之介「袈裟と盛遠」論

亀井勝一郎論

女流俳人の前線へ近代・現代へ

安房直子作品におけるファンタジー性について

黒田三郎論

「日本婦道記」論

鉄幹と晶子の世界「紫」と「みだれ髪」を通して

坂口安吾論

牧志かおり

宮本 明美

村山 盛康

森田 友子

吉田 治美

吉野 明美

朝日 睦泰

谷口 達雄

西原 真司

東 保彦